



しず  
おか  
茶  
の  
都  
マップ



GUIDE BOOK OF TEA FACILITIES OF SHIZUOKA







駿河路や

はなたちばな

花橘も茶の匂ひ

には

松尾芭蕉

元禄七年（一六九四年）、芭蕉五十一歳の句です。この年の旧暦五月、江戸から京へ東海道を西に向かいます。その折、越すに越されぬ大井川。どうたわれた大井川の増水による川留めにあい、島田宿に四泊も足止めされました。そのときに詠んだのがこの句です。駿河路はさすがに茶どころ。香り高い橘の花でさえ、お茶の匂いにかわかない。という内容からは、当時既に駿河路が茶どころだと広く知られており、また、お茶独特の香りが辺りに漂っていたのだということがわかります。

## Contents

- 04. 茶の都しずおかの歴史と文化
- 10. 日本一の静岡茶
- 12. しずおか茶産地エリアマップ
- 14. 静岡県のブランド茶
- 15. お茶名鑑
- 16. お茶ができるまで
- 18. お茶の健康パワー
- 20. 茶資源全体マップ
- 22. エリアマップ（浜松・磐田・袋井・森）
- 26. エリアマップ（掛川・菊川・御前崎）
- 30. エリアマップ（島田・牧之原・川根）
- 40. エリアマップ（藤枝・岡部）
- 44. エリアマップ（静岡・清水）
- 60. エリアマップ（富士・沼津・裾野）





文字に英字を  
使っていたことから  
「西洋の文字」との解釈で  
蘭字と呼ばれました。

# 販促を後押しした モダン浮世絵 蘭字



輸出用茶箱(明治後期)  
所在地:農研機構野菜茶業研究所 寄託先:フェルケール博物館



輸出茶の沖荷役(大正)

## お茶王国の幕開け 清水港開港

開国を迎えた幕末から明治初期は、各地の茶産地が輸出へ目を向け始めた時代。静岡の茶も、清水港から横浜港へ運ばれ、アメリカなどに輸出されていた。しかし、当時仕上げや加工をし、輸出を担っていたのは外商といわれる外国の貿易会社でした。国際的な交渉に不慣れた日本人は茶を外商に販売するだけでなく、不当な取引を強いられるなど、輸出による恩恵を受けることは少なかったのです。このような中、次第に直輸出をめざす動きが活発化、その中心舞台となったのが清水港でした。

静岡市井川出身の海野幸三郎をリーダーとする茶業関係者の熱心な運動と、東海道本線開通の打撃から清水港の海運業を守ろうと立ち上がった地元議員らの指定

港申請が受理されて、明治三十二年(一八九九年)、清水港は開港場に指定。明治三十八年(一九〇五年)、海野は市内に再製工場を作り、翌年には日本郵船株式会社との十年に及ぶ交渉を成立させました。この年の五月、日本郵船株式会社の「神奈川丸」が清水港へ寄港し、お茶王国静岡の幕開けとなりました。



沖合における  
茶荷役

茶の輸出が盛んになると輸出用の茶箱や袋に、蘭字と呼ばれる木版画の美しいイラストが貼られました。

浮世絵の技術に連なる蘭字は、銘柄や会社名などがひと目でわかるだけでなく、花見や茶摘みといった日本の四季や花鳥風月の絵柄、絶妙に湿じった英字が何とも異国情緒豊かで欧米人の心を捉えたのでしょう。蘭字欲しさに茶を購入した人もあったといえます。外国人をも魅了した蘭字は、日本における近代グラフィックデザインの先駆けともいわれています。

### もっと「蘭字」を知ろう

- ◆ 旧赤レンガ倉庫
- ◆ お茶の郷博物館
- ◆ 蘭字ギャラリー
- ◆ フェルケール博物館

P.59 P.42 P.31 P.28



# 日本一の大茶園と 茶の架け橋

## 【牧之原大茶園】

日本の茶の約四割を生産する静岡県。その四分の一を担っているのが牧之原大茶園です。どこまでも続く緑の



牧之原大茶園

じゆうたんがまぶしい大茶園ですが、その背景には大変な苦勞がありました。  
明治二年(一八六九年)、海舟の協力により、中條景昭をリーダーとする旧幕臣約二百五十名が牧之原台地に移住して開墾を始めました。さらに、明治三年(一八七〇年)に、新政府が大井川の川越制度を廃止したことで失職した人足たちも加わり、一丸となって開墾を進めます。その後、地元農家へと引き継がれ、明治十二年(一八七九年)に横浜の製茶共進会に「川越人足開拓の茶」を出品、入賞するまでに成長しました。大正初期には台地の大部分を拓き終え、今日の日本一の大茶園へと発展しました。



蓬萊橋

## 【蓬萊橋】

蓬萊橋は牧之原台地で働く開墾者の食糧物資、茶を運搬するために明治十二年(一八七九年)、農業用の貨取橋(有料橋)として架けられました。  
橋から牧之原台地に上がってすぐの地区は最初に開墾したとされる場所で、開墾者のリーダー中條景昭の住居もあつたといわれています。現在は中條景昭の像が立ち、広大な茶園を見守っています。

## 深蒸し茶の故郷 牧之原台地

深蒸し茶は、牧之原台地とその周辺部で生まれました。  
昭和四十年代に入ると、関東圏で、コクのある甘味の強い深蒸し茶が高く評価されたことから、消費が気に拡大。高級茶並みの価格で取引されるまでに成長し、現在では静岡県内各地で製造が拡大しています。



# 国産紅茶の祖 多田元吉



多田元吉  
文政十二年(1829年)  
千葉縣富津生まれ



もっと「多田元吉」  
を知ろう

◆多田元吉顕彰碑  
(起龍天満宮)  
◆ただにしきの茶園

P.62 P.48

# 静岡茶の祖 聖一国師

静岡に茶をもたらしたといわれる鎌倉時代の名僧。「聖一国師」とは没後の諡号で、生前は円爾弁円と呼ばれていました。

建仁三年(一一〇二年)に、現在の静岡市葵区板沢の米沢家に生まれ二歳にして誕生時の記憶を母に話す天才幼児だったと伝えられています。  
十八歳で出家し、嘉禎元年(一一三五年)に念願の宋(中国)

へ渡り仏教を学びます。帰国後は京都・東福寺を開山、故郷を訪れた際に、仏教の教えとともに持ち帰った茶の種を、生家からひと山越えた安倍川本流沿いの足久保に播いたといわれ、これが静岡茶の始まりとされています。



聖一國師誕生地の碑(P.47)  
生家は、富科川上流葉落と安倍川流域とを結ぶ幹道沿いに現在も続いている旧家



聖一國師(生前の名は円爾弁円)  
(生1202年~没1280年)静岡市板沢生まれ



# 歴史薫る お茶のまち 茶町

静岡市葵区茶町、藤枝市茶町。二つの茶町が形成されたのは江戸時代。産地から運ばれた荒茶の取引や、輸出のための再製・出荷など茶産業の本拠地として大変栄えました。今も、新旧の製茶問屋が軒を連ね、お茶を加工する爽やかな香りが漂っています。



現在の静岡市茶町



昔の静岡市茶町

## 【静岡市葵区茶町】

静岡市中心部の北西にある茶町は、かつて徳川家康が築いた駿府城下町のひとつ。身分や職業別に区分けをする都市計画のもとに「駿府九十六ヶ町」が形成され、「茶を商うものが集まる町」として誕生しました。明治三十九年（一九〇六年）に清水港からの直輸出が実現すると、港から十五kmほどの場所にもあり多くの茶が集まる茶町に、輸出茶用に仕上げる再製工場が一気に増加。軽便などのインフラ整備も進み、輸出用の茶袋や茶箱、茶缶を作る関連業者、製茶機械メーカーなどが加わりました。

## 【藤枝市茶町】

静岡県のほぼ中央にある藤枝市は古くからの茶産地。市内を流れる瀬戸川上流の山間部で江戸時代に始まったといわれています。茶町は、その瀬戸川下流のほとりに開けました。幕末以降は輸出が増え、交通の便も良かったことから大井川上流の川根や牧之原などの茶も運ばれ、集散地として繁栄しました。近くには明治三十四年（一九〇一年）に設立された旧藤枝製茶貿易会社と、ながり屋根の洋館の中には、拝見場や荷受場、再製加工場、屋根には「茶」の字が刻まれた棟瓦があり、その名残をとどめています。

# 静岡市茶町の 界隈の 屋号あれこれ

江戸時代には使われていたという商店の呼称、屋号。

その多くは、「さす」「やま」「かく」「ひし」「かね」「まる」「ふじ」をベースに構成されているようです。

歴史ある静岡市茶町の茶商は今も屋号で呼び合うことが多く、新人社員はまず取引先の屋号を覚えることから始まるとか。そんな、店のシンボルともいえる屋号はいろんなモノに記されています。

まる



屋号よりも目立っている存在感抜群のダルマ。茶業を始める前からダルマ制作をしているため、屋号は「マルタ」だが、呼び名は「ダルマ屋」。(和田清商店の前垂れ)

店名の「白銀屋」は、徳川末期まで刀剣の鋼(つば)を取り扱っていたことに由来する。文久2年に茶業を創業。店名とともに屋号の「マルハチ」も受け継がれている。(白銀屋の暖簾)

まる



さす



山間部・峰山地区出身の創業者が、「峰山の一番星になりますように」そんな願いを込めてつけた屋号「さすぼし」。「さす」は峰山(山)、中央の黒丸が一番星を意味している。(小林市蔵商店の拝見盆)

かね



創業時の社名は、創業者・鈴木初次郎の名前から取った「スズハツ」だったが、その後、「ハツ」が縁起の良い「ハチ」に長じ、産産盛を意味する「かね」と合わせて「カネハチ」に。(かねはち茶園の茶箱)

やま



のれん分けの際、本家から譲り受けた屋号「ヤマニ」。本家は成田屋三商店で、その創業者は山間部・清沢出身の西沢(旧姓)だったため、清沢から「やま」、西沢から「ニ」を取り、「ヤマニ」に。(石川四方蔵(よもぞう)商店の法被)

もつと「茶町」を知ろう

◆旧藤枝製茶貿易会社 P.42

◆静岡市茶町 P.55



現在の藤枝市茶町



—— 中村羊一郎先生 インタビュー ——  
先人の熱意が築いた

## 日本一の静岡茶



静岡県はどこを歩いても

茶園が広がり、おいしい

お茶がいただけます。

そんな茶処は、どのようにして

作られたのでしょうか。

お茶の民俗学の第一人者である

中村羊一郎先生にうかがいました。

### 【プロフィール】

静岡産業大学総合研究所  
客員研究員  
情報学部非常勤講師

中村羊一郎先生



静岡市出身。東京教育大学卒。  
静岡県立高校の教員を経て、静岡県史編さん室長、県立吉田高校校長、静岡市立商業高校校長を歴任。2003年4月より静岡産業大学国際情報学部特任教授に就任。2004年4月より同大学教授。2005年4月から2013年3月まで同大学情報学部教授・O-CHA学研究センター長を勤める。「茶の民俗学」、「番茶と日本人」、「中村羊一郎のお茶しませんか」など多数著書を発表。

お茶を静岡に初めてもたらしたのは鎌倉時代の名僧聖一国師である、と伝えられています。その由緒ある静岡茶は、江戸時代には將軍家の御用達となり、「お茶は駿河」という印象を各地に与えました。

江戸中期になると、静岡の茶産業を变える一大発明が登場します。宇治の永谷宗円が開発した「宇治製」とよばれる製茶技術で、これが現在の煎茶製法の基本となりました。やがて日本は開国、茶が重要輸出品となり、そのほとんどがアメリカ向けに送られました。しかし、当時は商品用的高級茶と天日干しの自家用茶を作り分けていたことで、粗悪茶や一見お茶に似ているヒジキなどを混ぜた「七茶」を出す茶農家もあり、アメリカから厳しいクレームがきました。そこで組合を結成するなど品質向上に努力した結果、静岡の製茶技術は最高水準まで高められ、農家の自家用にも良いお茶が飲まれるようになりました。

第二次世界大戦で輸出がゼロになると、いつときは全国生産量の九割を輸出していた日本の茶産業は大打撃を受けます。しかし、静岡のお茶屋は負けなかった。お茶を背負って栃木県や山形県まで売り込みに行き、東日本に市場を拓いたの

です。その後、昭和四十年頃まで静岡茶の全盛期が続きます。当時、日本の茶の生産量は年間十万吨以上ありましたが、その五割は静岡茶。茶市場では流通量の七割を担うほどになりました。

この「七割」にはこんな秘密があります。静岡の製茶技術のベースは宇治ですが、独自の製法を確立し、明治二十、三十年代には最高峰となります。すると、全国から技術指導の要望が届き、静岡から茶師を派遣します。そして、各地に静岡の製茶技術が広まり、結果として高値で取引できる静岡の茶市場へと自然にお茶が集まり、七割という数字を築くことに繋がったのです。もちろん牧之原の開墾、清水港の開港という要素も見逃せません。

静岡のお茶の歴史を振り返ると、いつの時代もお茶に熱意を注いだ先人の存在があります。特に、今日のお茶王国を築いた明治の茶業関係者の熱意は本当にすごい。私たちは、広大な茶畑やおいしいお茶を当たり前のよう感じてしまいがちですが、先人の偉業を評価し、学ぶべきです。まだまだ、お茶には可能性があると思っています。最高度に磨き上げた静岡茶が次の時代に進むにはどんな発想をしたらいいか、皆で考えていきたいですね。



静岡県には  
これだけたくさんの  
茶産地が  
あるのです。

# しずおか 茶産地 エリアマップ



**⑧ 富士・沼津茶産地**



富士山西南の裾野地帯や愛鷹山の南麓茶園で生産されるお茶。まろやかな味わいの煎茶が特徴。

**⑦ 清水・庵原茶産地**



主に清水南部の日本平と興津川流域で栽培され、早い時期に収穫される。この煎茶の特徴は甘い香りと穏やかな味。

**⑥ 静岡本山(ほんやま)茶産地**



静岡市を流れる安倍川とその支流・養科川を中心とする山間地帯を「本山」と呼び、爽快感ある上質茶が生産されている。

**① 天竜・森・春野茶産地**



天竜川上流の北遠地域と太田川上流地域を中心に栽培される、さわやかな香りと味わいの上質煎茶で知られる。

**② 中遠(ちゅうえん)茶産地**



小笠山周辺から牧之原に接する地域で主に栽培されるお茶。深蒸し茶など特徴あるお茶の産地として知られる。

**③ 牧之原茶産地**



明治の初めに旧幕臣たちによって開墾された、大井川西岸の牧之原台地とその周辺の広大な茶園は、国内有数の茶産地。

**④ 川根茶産地**



南アルプスを源とする大井川上流地域は良質茶の生産条件に適した自然環境で、古くから銘茶の産地として全国的に知られる。朝霧に包まれる山間の茶畑で育った煎茶は、まろやかな味わいが特徴。

**⑤ 志太(した)茶産地**



藤枝市、島田市の山間地帯が大部分を占め、それぞれ河川流域が主産地となっている。藤枝市岡部町の朝比奈川上流地域では玉露などの上質なお茶が作られている。

— 東名高速道路  
— 新東名高速道路  
— 一般道





「JAS」お茶を登録した静岡産茶葉の産地  
 多岐にわたる静岡産茶葉の産地の中から、全国で唯一の静岡産茶葉の産地として「JAS」お茶を登録した産地が、静岡県の産地です。



個性いろいろ

## お茶名鑑

お茶は生産過程や摘み取り後の製造工程の違いで多くの種類が存在します。ここでは12種類に分類してご紹介します。

### 煎茶

日本茶の代表で最も一般的なお茶。上品品ほどまみや香りが良くなります。



### 番茶

新芽の摘採後に伸びてきた芽や、成長して硬くなった葉から作るお茶。夏の日晒しを浴びている分タンニンが多く、やや渋味の強い味わいです。



### 玉露・かぶせ茶

収穫前に、よしずなどで日光を遮断し栽培することでうま味を引き出したお茶。とろりとした口当たり、まろやかで濃厚な甘みが特徴です。



### 深蒸し茶

煎茶に比べ、蒸す時間を2〜3倍長く費やして作られるお茶。濃い緑色の水色とマイルドで濃厚な味の特徴です。



### 玄米茶

番茶や煎茶に炒った玄米を混ぜ合わせたお茶。最近は深蒸し茶やほうじ茶などと合わせたものも出ています。独特の香ばしさと奥深い味わいがあります。



### 福茶(てんちゃ)

玉露のように日光を遮って栽培した茶葉を収穫後に蒸し、葉脈を取り除き、揉まずに乾燥させたもの。抹茶の原料になります。



### 抹茶

碾茶を石臼で挽いて粉末状に仕上げたお茶。茶道に用いられることで有名です。深緑が鮮やかで、強い苦味の中にやさしい甘みがあります。



### 茗茶

仕上げ工程で分離されたお茶の芽の部分を使ったお茶。苦みや渋みがなく、ふくよかな甘みのあるお茶です。



### 烏龍茶(ウーロン茶)

煎茶と紅茶の中間の半発酵仕上げのお茶。豊かな香りと、どんな料理とも合うさっぱりした味わいが人気です。中国、台湾が主な生産地です。



### 紅茶

茶葉を完全発酵させて仕上げたお茶。濃い赤褐色の水色と高貴な香りがあり、世界各地で飲まれています。インド、スリランカが主な生産地です。



### ほうじ茶

煎茶や番茶などを強火で炒って作るお茶。茶褐色の水色が特徴です。香ばしくさっぱりとしているため、食後のお茶としても親しまれています。



### 釜炒茶

生葉を蒸さずに釜で炒って揉みながら乾燥させて作るお茶。煎茶よりも古い歴史があります。茶葉がカールしているのが特徴です。



静岡市  
 有機山吹撫子  
 浜松市天竜区春野町の特定農家の有機茶葉のみを原料とし、微生物制御発酵により製造されたお茶です。  
 -平成23年度認定商品-



静岡市  
 まちち  
 「静7132」という茶品種をブランド化して誕生しました。茶葉が細くつややかで、ほんのりとした桜葉の香りが特徴の清水のお茶です。  
 -平成23年度認定商品-



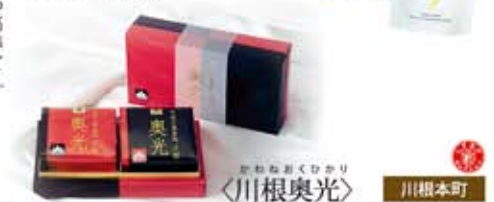
牧之原市  
 望  
 摘採前に遮光ネットをかぶせることで鮮やかな緑色と旨味を高めたお茶。茶業界初の認定基準を設け、品質の安定化を図っています。  
 -平成22年度認定商品-



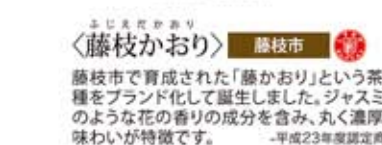
牧之原市  
 茶流瘦々  
 牧之原産やぶきたを原料に静岡酵母と黒麹菌によって約80時間も発酵させた、まろやかな味と香りの国産ダイエットブーアール茶です。  
 -平成22年度認定商品-



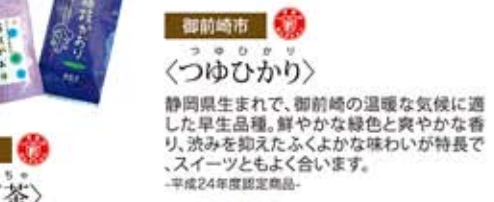
牧之原市  
 花いろ烏龍茶  
 牧之原産のべにふうきを原料にした国産烏龍茶です。独自の製法により、これまでの緑茶とは異なる香りのあるお茶に仕上がっています。  
 -平成22年度認定商品-



川根本町  
 川根奥光  
 静岡県が育成した品種「おくひかり」を、天空の茶産地と言われる川根の標高500mの茶園で生産した高級茶です。濃緑で渋みが効き、清涼感が自慢です。  
 -平成22年度認定商品-



藤枝市  
 藤枝かわり  
 藤枝市で育成された「藤かわり」という茶品種をブランド化して誕生しました。ジャスミンのような花の香りを含み、丸く濃厚な味わいが特徴です。  
 -平成23年度認定商品-



御前崎市  
 つゆひかり  
 静岡県生まれで、御前崎の温暖な気候に適した早生品種。鮮やかな緑色と爽やかな香り、渋みを抑えたふくよかな味わいが特長で、スイーツともよく合います。  
 -平成24年度認定商品-



静岡市  
 丸子紅茶  
 日本の紅茶発祥の地「丸子」で生産された伝統の国産紅茶です。環境に配慮した栽培と静岡生まれの技術で製造されています。  
 -平成22年度認定商品-



# おいしいお茶はこうして生まれる

## 手揉み技術（静岡県無形文化財）

生葉を抽出しやすくし、保存性を高める煎茶本来の製法です。蒸した後、丈夫な和紙を張り、炭火で下から熱する焙煎（ほいろ）の上で手で茶葉をほぐす、揉むなどを行い、乾燥させながら仕上げます。完成した茶葉は針状で美しく、お湯を注ぐと茶葉の形に戻ります。

静岡県式の製茶法は、江戸時代に発案された「宇治製」をもとに、明治初期〜中期に県内で考案された「コロガン」、「デングリ」の独自技術を加えたものです。現在の製茶機の動作も手揉みの手さばきの応用から作られています。



**ブレンド（合組・ごうぐみ）**  
産地や品種、蒸し具合などが異なる荒茶の特徴を見極めて、ブレンドすることで価値のあるお茶（製品）を生み出す技術です。通常、お茶は一種類の茶葉で作るわけではなく、何種類もの茶葉をブレンドすることで単一のお茶にはない味や香り、旨みを引き出すのです。それぞれのお茶の長所を引き立てバランスよく配合できるかは、茶匠の経験や感覚に委ねられます。ブレンドすることで、お茶はその店でしか飲むことのできない価値のあるお茶に生まれ変わります。

## 荒茶工程



**茶畑（生葉）** 茶葉を摘採し、製茶工場へ。

**生葉保管（送風・加湿）** 湿度の高い空気を送り、生葉の湿度を維持します。

**蒸熱（しょうねつ）** 蒸気で蒸し、酸化を防ぎます。ここで「味・香り・水色」の骨格が決まります！

**冷却** 急速冷却で色沢・香味を守ります。



摘んだお茶は、ただちに蒸すことにより酸化（発酵）を止め、自然の色合いや香りが変化しないようにします。そして揉みながら乾燥度を高め、細く伸びた形に仕上げます。この段階の茶葉は半製品（一次加工品）で「荒茶」と呼ばれます。お茶農家と製茶問屋の取引はこの荒茶で行います。

**中揉（ちゅうじゅう）** ふたたび揉みながら熱風で乾かします。  
**中揉機**

**揉捻（じゅうねん）** 茶葉をひと塊にして圧力を加えて塊全体の水分を均一にしながら揉みます。  
**揉捻機**

**粗揉（もじゅう）「コロガン」** 打圧を加えて茶葉の中の水分を表面に揉みだしながら熱風で水分を取ります。  
**粗揉機**

**葉打ち（はうちり・葉揃い）** 熱風を送り、表面の水分を取りながら打圧を加えて揉みます。

**精揉「デングリ」** 手で揉むように一定方向に揉み、細く伸びた形に整えます。  
**精揉機**

**乾燥** 熱風乾燥で水分含有量5%程度に乾かします。  
**乾燥機**

**深蒸し茶とは？** 普通煎茶よりも約2倍、長い時間かけて茶葉を蒸して作る煎茶の一種です。茶葉の中までしっかりと熱が伝わるため水色（すいしょく）も緑鮮やか。

## 仕上げ茶工程

形が不揃いで水分含有量の多い「荒茶」を、おいしい「製品」に完成させるために行います。



**仕上げ茶（製品）**  
**ブレンド（合組・ごうぐみ）** 製品の調整・配合と均一化をはかります

**冷却** 冷却して風味を守ります

**火入れ** 乾燥させると同時に独特の茶の香りや味をひきだします  
※茶町界隈に漂う香りは「火入れ」によるものです！

**整形・分別** 「ふるい分け」「切断」して茶葉の形を整えます

**包装** 茶箱や袋に詰められます

**輸送** 製茶問屋などから、地元をはじめ全国の小売店などに届けられます。  
※遠征販売など問屋から直接消費者へも販売されています

**小売店** 茶店やデパート、スーパーなどで販売されます。  
※インターネット販売も増えています。





# お茶の 健康パワー

中国の古い教え

「医食同源 薬食一如」のなかで、  
薬草のひとつとして

利用されていたお茶。

その後、僧によって日本中に広まり、  
今では天然の健康飲料として

注目を集めています。

薬学博士で静岡県立大学学長の

木苗直秀先生に

お茶と健康について聞きました。



## 「薬はお水で飲みましょう」

薬の中にはお茶と相性の悪いものもあります。薬は肝臓の酵素によって代謝されますが、お茶は酵素による薬の分解を早めるため、効き目を悪くしてしまいます。薬は必ず水で服用しましょう。



Q1. 昔、お茶は薬に  
使われていたそうですが？

A1. 「医食同源」の発想のなかで、中国には「食医」と呼ばれる今でいうお医者さんがいました。彼らは様々な薬草を選別しながら何種類かを組み合わせ、調剤のようなことをしていたようです。日本にもそれに近い民間療法があり、何種類かの薬草や食品を合わせて漢方薬のような薬を作っていました。お茶も薬のひとつとして、煎じて飲むかたちで使われていたものと思われれます。

Q2. 先生の健康成分は？  
お茶の健康成分は？

A2. カテキン、ギャバ、テアニンです。お茶の主成分のカテキンは、とにかく抑制する力が多彩。がん細胞をはじめ、血中コレステロール、血糖の上昇、細菌、インフルエンザウイルス、酸化などみなさんが気になるものはかりです。ギャバ(アミノ酸の一種)やテアニンは、脳をリラックスさせる作用が科学的にも認められています。例えばつり橋を渡るとき、先ににお茶を飲んでおくと少しドキドキが治まるんですよ。

私はよく先生方や学生たちとランチミーティングをしますが、必ずお茶を淹れます。すると、最初に少々興奮気味だった人が

A3. 徐々に落ち着くんです。お茶は「ミネレーション」のツールとして有効ですよ。

Q3. 静岡県は、なぜ健康寿命(※)が日本一なのですか？

A3. 理由は様々ありますが、ひとつはお茶の摂取量が多いこと。全国1位が静岡県、2位が浜松市です。地場食材も豊富で農水産物の生産数は219品目と全国1位。栄養バランスの取れた食生活に繋がっているものと思います。長寿といえば、平均寿命が37、38歳の江戸時代に75歳まで生きた徳川家康は、お茶をはじめ、麦飯や味噌汁、イワシなどを好んで食べていたそうです。健康に良い食材ばかりですね。

※「健康寿命」…介護が必要なく元気に過ごせる期間

## お茶といえば…

私の小学生の頃のお弁当は梅干しが目立つ「日の丸弁当」でした。アルマイト素材のお弁当箱でしたので梅干の酸でフタに穴が開いてしまい、当時はフタでお茶を飲んでいましたから苦労しました。食べ物の少ない時代でしたが、お茶だけは飲んでいましたね。食後のお茶は子供の頃からの習慣です。

Q4. 他の食品や飲料に比べてお茶の優れている点は？

A4. 淹れるお湯の温度によって成分の濃度を調節できるところがユニークですね。例えば、風邪予防に良いカテキンは高温で淹れるとよく抽出できるので、熱めのお湯で淹れます。リラックスしたい時はテアニンですが、こちらはカテキンと逆。

低温で出てくる成分なので、ぬるめのお湯で淹れるとよいでしょう。カテキンが多いと渋め、テアニンが多いとまろやか。味の違いも楽しめます。

Q5. 続けている健康法はありますか？

A5. 学内外の会議や学生とのミーティング等に追われる毎日です

が、工夫をしながらストレッチ体操をして、お茶を飲みます。お茶と軽いストレッチは気分転換に最高ですよ。

Q6. お茶はガンに効くといわれていますが？

A6. 最近のデータでは、胃がんや大腸がん、肝がんの発生率の抑制が認められています。以前、カテキン含有量と死亡率の関連性を調べたとき、茶産地の人が飲むお茶はいずれもカテキン量が多く、がんによる死亡率が低いという結果が出ました。

Q7. お茶の最新の健康情報はありますか？

A7. お茶に含まれるカテキンやポリフェノールの放射線防護効果が明らかになっています。放射線に汚染されたネズミに緑茶やブルーアル茶、ルイボス茶を与えた実験では、お茶の成分が体内で発生した放射線による染色体異常を減少させました。染色体異常が進むと、がんになりやすいので、がん予防に繋がると考えてよいでしょう。

Q8. 健康のためには、一日何杯位飲んだら良いですか？

A8. この実験では、お茶を飲んでいる人は放射線にさらされても影響が少ないということ、あまりお茶を飲まない人も放射線にさらされた時点から飲むことでその吸収を抑制できることが分かりました。

日常飲料として飲むなら、一般的には5〜10杯が良いと言われています。がん予防など健康のためなら10杯以上ですね。ただし、無理して飲んではいけません。おいしいと思えないとストレスに繋がります。薬効を意識し過ぎるより嗜好飲料として飲む、それが健康に繋がるといふ発想を。

## 【プロフィール】

静岡県立大学 学長  
薬学博士  
木苗直秀 先生



沼津市出身。静岡薬科大学大学院薬学研究所博士課程修了。2009年3月より静岡県立大学学長に就任。大学ネットワーク静岡副会長、公立大学協会会長。食品衛生学、食品安全学を専門分野とし、「健康と食の安全を考えた食品衛生学実験(共著)」、「食品中の化学物質と安全性(共著)」など多数の著書を発表。



# 茶資源 全体マップ

史跡や博物館、体験施設など  
静岡県内に広がるいろいろなお茶スポット。  
おでかけしてみませんか？



- 01 香りの丘茶ピア「茶道庵」
- 02 瀧尻の段々茶園
- 03 浜松市茶室「松韻亭」
- 04 気賀林顕彰碑
- 05 旧赤松邸・旧赤松家記念館
- 06 森山焼
- 07 茶香（森町文化会館）
- 08 宋西禅師像（油山寺内）
- 09 粟ヶ岳の茶文字と茶草場
- 10 旧赤レンガ倉庫
- 11 掛川城公園「二の丸茶室」
- 12 清水亭（清水邸敷内）
- 13 高林謙三記念石碑
- 14 松下幸作顕彰碑
- 15 静岡県茶業研究センター
- 16 お茶の郷
- 17 中條景昭像
- 18 宋西禅師像（牧之原公園内）
- 19 道の駅フォーレなかかわね茶茗園
- 20 蓬萊橋
- 21 牧之原大茶園
- 22 グリンピア牧之原
- 23 村松嘉蔵顕彰碑
- 24 中村光四郎顕彰碑
- 25 茶製人山本長右衛門碑
- 26 中山新道の道銭場跡
- 27 志戸呂焼と志戸呂焼フルーツ
- 28 ①野茶茶業研究所金谷茶業研究拠点
- 29 ①坂本眞澄水壩②金谷18工区ファームポンド
- 30 ①神田源蔵像②神田源蔵顕彰碑
- 31 伊佐新次郎書碑
- 32 製茶元祖坂本藤吉顕彰碑

- 33 旧伊久美銀行・現二役公会堂
- 34 富士山静岡空港しずおか茶おもてなしコーナー
- 35 茶名産地放牧サービスエリア内の茶園
- 36 村松吉平の碑
- 37 ヘリヤ商会感謝状英文碑
- 38 道の駅 玉露の里・玉露茶園
- 39 旧藤枝製茶貿易会社
- 40 蘭字ギャラリー
- 41 旧藤枝製茶工場跡
- 42 瀬戸ノ谷の大茶樹
- 43 足久保の段々茶園と狐石
- 44 お茶産屋敷とお茶産道中
- 45 旧マッケンジー邸
- 46 聖一國師生誕碑
- 47 やぶきた原樹
- 48 多田元吉碑
- 49 吐月峰榮聖寺
- 50 築地光太郎・大棟藤吉碑
- 51 縁側お茶カフェ（大岡地区）
- 52 縁側お茶カフェ（大沢地区）
- 53 隠機（しずはた）焼「秋葉海房」
- 54 静岡茶市場
- 55 静岡県茶手続保存会
- 56 茶師の権
- 57 茶町の茶蔵
- 58 円通大心園研産道の井
- 59 臨濟寺茶祖堂・聖一國師木像
- 60 飯沢のつづり折り茶園
- 61 海舟庵（曹洞宗 宝寿院）

- 62 坂本藤吉製茶之碑
- 63 ①丸尾結城徳徳碑②丸尾文六碑
- 64 ①復三位美濃守之碑②関口隆吉顕彰碑
- 65 杉山彦三郎の胸像
- 66 もみじ亭（駿府城公園紅葉山庭園）
- 67 静岡市茶町
- 68 喫茶一茶
- 69 静岡駅構内の茶樹
- 70 しずおかO-CHAプラザ
- 71 静岡鉄道（新静岡駅）
- 72 大谷嘉兵衛像
- 73 グランシップの茶園
- 74 杉山彦三郎記念茶樹
- 75 聖一國師堂
- 76 ちゃつきり邸の碑
- 77 海野幸三郎の碑
- 78 フェルケール博物館
- 79 清見寺
- 80 御幸亭（由比本陣記念館）
- 81 富士市大淵の茶蔵と次郎長開港記念碑
- 82 ただにしきの茶園
- 83 天下一製法
- 84 華松亭（沼津御用邸記念公園）
- 85 江原素六像





# 浜松・磐田・袋井・森 エリア

はままつ・いわた・ふくろい・もり



## 01. 香りの丘茶ピア「茶遊庵」 (JA遠州中央 香りの丘茶ピア)

香りの丘「茶ピア」は、JA遠州中央の経営するお茶とその文化を体験できる「お茶の総合体験ランド」です。平成7年(1995年)3月に完成しました。2,400平方mの広さを持つ美しい日本庭園と、新しいながらもにじり口を備えた本格的な茶室の造りをもつ「茶遊庵」。4.5畳の小間から8畳の広間を備え、正座の苦手な方には椅子に座って、本格的なお茶席を楽しめる立礼(りゅうれい)席が用意され、気軽にお茶席を楽しめる空間です。



開放的な空間で、気軽にお茶席を楽しめます。



香りの丘茶ピア「茶遊庵」  
(JA遠州中央 香りの丘茶ピア)  
袋井市岡崎7157-1  
0538-44-1900 (代)  
<http://www.ja-shizuoka.or.jp/enchu/chapia/shisetsu/shisetsu.html>

【アクセス】  
〈お車で〉東名袋井ICより約25分、東名掛川ICより約30分  
〈電車で〉JR「袋井駅」よりタクシーで約10分

【休業日】火曜日  
【営業時間】直売所 / 9:00~16:30  
茶室「茶遊庵」 / 10:00~16:00 (土日のみ営業)





## 06. 森山焼

- ①中村陶房
- ②静邨陶房
- ③田米陶房
- ④晴山陶房



森山焼の名称は、遠州森町森山の地名を取って命名され、江戸時代の優れた茶人であり遠州流茶道の開祖、「小堀遠州」が自ら指導し、意匠を与えて焼かせた遠州七窯の一つ。志戸呂焼の流れを汲み、現在四つの窯元があります。



**森山焼**  
周智郡森町森  
0538-85-1112 (森町教育委員会事務局)  
<http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/>  
【アクセス】  
〈電車〉天電浜名湖線「遠州森駅」より徒歩約10分



## 05. 旧赤松邸 旧赤松家 記念館

近代日本の造船技術の先駆者で、明治期に磐田原台地に茶園を開拓した海軍中将赤松則良男爵の邸宅跡です。



**旧赤松邸 旧赤松家記念館**  
磐田市見付3884-10  
0538-36-0340  
<http://www.city.iwata.shizuoka.jp/shisetsu/entry/shisetsu100036.php>  
【アクセス】  
〈バス〉JR「磐田駅」より遠鉄バス「河原町北」バス停下車



## 02. 瀬尻の段々茶園 (浜松市龍山町瀬尻 ※藤原家所有地)

浜松市天竜区瀬尻地区生島(おくしま)と呼ばれる地域にある石垣積みの茶畑。現在の所有者の方が独力で25年もの歳月をかけて作られた茶畑です。多大な労苦で、急傾斜面にていねいに石を積み重ね、石垣の茶園を作り上げました。美しい山村の景観形成や国土保全を行ったとして、平成11年(1999年)に静岡県が国土保全、農山村景観、歴史的文化価値等に優れたとして「静岡県棚田等十選」に選定しました。



### 瀬尻の段々茶園

**浜松市天竜区龍山町瀬尻**  
054-221-2757(静岡県農地保全課)  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-630/tanada/tanada-10.html>  
【アクセス】  
〈お車〉東名袋井I.C又は浜松I.Cより約70分、新東名浜松浜北I.Cより約50分  
〈バス〉遠州鉄道「西面島駅」より遠鉄バス「瀬尻」バス停下車徒歩約5分

※注意…個人の所有地ですので、無断で立ち入ったりすることのないよう配慮をお願いいたします。



## 08. 栄西禅師像 (油山寺内)

栄西禅師は「喫茶養生記」を著し、茶の普及に大きく貢献しました。昭和25年(1950年)、茶業振興・茶文化の発展を祈願して日本一大きな栄西禅師像が建立されました。



**栄西禅師像**  
袋井市村松1  
0538-42-3633 (油山寺)  
[www.2.wbs.ne.jp/yusanji/](http://www.2.wbs.ne.jp/yusanji/)  
【アクセス】  
〈お車〉東名袋井I.Cより約15分



## 07. 茶壺 (森町文化会館)

茶を容れる壺の総称。茶の湯でいう茶壺は、葉茶の貯蔵・運搬に用いられた容器ですが、本来の用途以外に美術品としても大変貴重な物が残っています。



**森町文化会館**  
周智郡森町森1485  
0538-85-1111 (代)  
【アクセス】  
〈電車〉天電浜名湖線「遠州森駅」より徒歩約13分



## 04. 気賀林頭彰碑

気賀林は、浜松三方原を開拓し、百里園と称される広大な茶園を造成しました。また、製茶工場を建設するなど地域の発展に尽力。一大農業地帯である現在の三方原の基礎を築きました。



**気賀林頭彰碑**  
浜松市北区三方原町

【アクセス】  
〈お車〉東名浜松西I.Cより約7分



## 03. 浜松市茶室 「松韻亭」

緑あふれる憩いの場として、市民に親しまれている浜松城公園の一角に平成9年(1997年)11月に開業された本格的な茶室です。日替わりで抹茶と煎茶が楽しめます。



**浜松市茶室「松韻亭」**  
浜松市中区鹿谷町11-4  
浜松城公園内  
053-473-4310  
<http://www.shouintei.jp/>  
【アクセス】  
〈お車〉東名浜松I.Cより約20分  
〈バス〉JR「浜松駅」より遠鉄バス「鹿谷町」バス停下車徒歩約8分





## 09. 粟ヶ岳の茶文字と茶草場

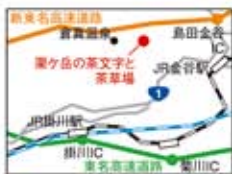
粟ヶ岳(あわがたけ、あわんたけ。別名無間山)は、静岡県掛川市と島田市にまたがる標高532mの山で、山頂近くには日本一のお茶どころをPRするシンボルマークの「茶」の文字が植林されており、島田方面や牧之原台地から見ることができます。麓の掛川市東山や島田市志戸呂(牧之原台地の北端)には茶畑が広がっています。茶の文字は、当初昭和7年(1932年)は松が植えられましたが、マツクイムシによる枯損から、昭和58年(1983年)にヒノキに植え替えられました。また、粟ヶ岳のある掛川市東山を中心とする地域では、茶園を支え、生物の多様性を保全する優れた茶草場農法が行われており、掛川市、菊川市、牧之原市、島田市、川根本町の5市町が「静岡の茶草場農法」の地域として世界農業遺産に認定されました。

### 「茶草場農法」とは

茶園の根元や畝間に敷くための草(ススキやササなど)を刈る採草地のこと。秋から冬になると、茶草を刈って束ねて干す作業が行われます。こうして干したススキなどの草を、茶園の敷き草として利用。

茶園への草の積極的な利用のため、茶園周辺には茶草場が点在しています。静岡では当たり前の風景ですが、その意義が改めて高く評価されました。そこには希少種を含む多くの茶草地の植物を身近に見る事ができます。茶草場から刈り取ったススキなどの草を茶園に敷く伝統的な茶草場農法の技術は、より高品質なお茶を生産しようとする農家の方々の努力により今日まで継承されています。良質なお茶を生産する営みや、結果的に生き物を守ってきたのです。

このように農業と生物多様性が同じ方向を向いて両立していることが世界から評価され、世界農業遺産に認定されました。



### 粟ヶ岳の茶文字・茶草場

掛川市東山など  
0537-21-1147  
(掛川市役所環境経済部農林課)  
kakegawa-kankou.com/chagusaba/

### 【アクセス】

〈お車で〉東名掛川ICより約15分  
(バスで) JR[掛川駅]より掛川市自主運行バス「東山」バス下車



# 掛川・菊川・御前崎 エリア

かけがわ・きくがわ・おまえざき





### 13. 高林謙三記念石碑 (報恩寺 墓地)

茶の輸出が盛んであった19世紀末期に緑茶を効率良く大量生産するために製茶機械の開発に取り組み、良質茶の安定生産に貢献した人物です。慰霊碑が菊川市報恩寺にあります。



高林謙三記念石碑(報恩寺 墓地)  
菊川市堀之内461  
0537-35-2354  
【アクセス】  
(電車で)JR「菊川駅」より徒歩約2分



### 12. 湧水亭 (清水邸庭園内)

清水家は江戸元禄時代に回船問屋を営み、横須賀藩の御用達を勤めるなどして栄えた旧家です。その美しい庭園は、平成13年(2001年)12月20日、「静岡県みずべ百選」に選出されました。園内の「湧水亭」では美しい庭園を眺めながらお茶を楽しむことができます。



湧水亭(清水邸庭園内)  
掛川市西大洞5298-2  
0537-48-6456  
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/kankou/spot/rekishibunka/shimizuteiteien.html>



【休 園 日】木曜日、年末年始 【開園時間】10:00～16:00



### 15. 静岡県茶業 研究センター

栽培技術や新品種の育成など静岡県の茶に関する様々な研究が行われている施設です。現在は、発酵茶ラボを開設し、国産紅茶・烏龍茶作りの研修ができるようになっております。



【発酵茶ラボ ご利用の注意】  
※要予約:使用予定日の1ヶ月前から前週の月曜日迄  
※原料生葉は使用者の持ち込みとなります



静岡県茶業研究センター  
菊川市倉沢1706-11  
0548-27-2311(代)  
<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-820/>

【アクセス】  
(お車で)東名相良牧之原I.Cより約15分  
(電車で)JR「金谷駅」よりタクシーで約15分  
(バスで)JR「金谷駅」より牧之原市自主運行バス「茶業研究センター」バス停車



### 14. 松下幸作顕彰碑 (菊川公園内)

製茶機械の始祖と呼ばれる高林謙三を支援し、自身も製茶機械製造会社を設立しました。静岡の茶業を近代化させた立役者の一人です。



松下幸作



【アクセス】  
(電車で)JR「菊川駅」より徒歩約10分



### 11. 掛川城公園「二の丸茶室」 (掛川城公園内)

掛川城公園内にあり、日本国内でも有数の生産量を誇る「掛川茶」を楽しむことができる茶室です。天気の良い日には、掛川城を眺めながら抹茶・煎茶を頂くことができます。



掛川城公園  
「二の丸茶室」  
掛川市掛川1138-24  
0537-23-1199  
<http://www.k-kousya.or.jp/ninomanu/publics/index/2>

【アクセス】  
(お車で)東名掛川I.Cより約5分  
(電車で)JR「掛川駅」より徒歩約7分、天電浜名湖鉄道「掛川駅」より徒歩約7分

【休 館 日】第4月曜日、年末年始  
【開館時間】9:30～17:00(入館は16:30まで)



### 10. 旧赤レンガ倉庫

明治20年(1887年)代に原崎源作氏らによって建設された富士製茶株式会社茶工場の旧倉庫。当時、菊川駅前には多くの煉瓦造りの茶を扱う倉庫が並んでおり、赤レンガ倉庫もその1つでした。



原崎源作



旧赤レンガ倉庫  
菊川市堀之内 JR「菊川駅」近く  
054-221-2252(静岡県文化政策課)  
<http://www.fujinokunibunkashigenet/resource/main.php?search=area&mode=detail&article=790>  
【アクセス】  
(電車で)JR「菊川駅」より徒歩約3分





お茶の文化を紹介する博物館、小堀遠州の復元茶室と日本庭園



## 16. お茶の郷

島田市にある茶の総合施設。中国上海の湖心亭やトルコアンカラのレストラン内部等を再現した世界の喫茶風景を体感できるコーナーや、日本茶文化を紹介するコーナーがある博物館のほか、江戸時代の大名茶人小堀遠州によって建てられた、京都伏見奉行屋敷の一部を復元した茶室縦目楼(しょうもくろう)、御水尾院御所東庭の復元庭園があります。茶室縦目楼では抹茶とお菓子が楽しめるほか、季節によっては施設内の茶畑でお茶摘み体験ができます。また、施設内には地域物産の売店やレストランが併設されており、買物や食事も楽しめます。



世界のお茶の歴史や文化、喫茶習慣が楽しめます



### お茶の郷

島田市金谷富士見町3053-2  
0547-46-5588  
<http://www.ochanosato.com/>

【アクセス】  
《電車》JR「金谷駅」よりタクシーで約5分、徒歩で約30分

【休館日】毎週火曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12/29~1/1)  
【開館時間】博物館・庭園/9:00~17:00  
(入館は16:30まで)  
茶室「縦目楼」/9:30~16:00  
(入館は15:30まで)

お茶の文化を紹介する博物館、小堀遠州の復元茶室と日本庭園



# 島田・牧之原・川根 エリア





### 18. 栄西禅師像(牧之原公園内)

栄西(ようさい)は、平安時代末期から鎌倉時代初期の僧で、宋から抹茶法という新しい飲み方を日本に持ち帰りました。承元5年(1211年)71歳の春に日本初となるお茶に関する著作「喫茶養生記」を著し、お茶の効能や仏教との関連を説き、中国の諸文献を引用し、その栽培・製茶・貯蔵・飲用などについて精力的に記述しています。「茶は養生の仙薬なり、延命の妙術なり」。禅師の言葉は、近年の科学的な研究においても、その実例がさまざまに報告されるほどの卓見。この禅師の功績を称え、栄西禅師像が建てられました。



栄西禅師像(牧之原公園内一角)

島田市金谷1701-1

[http://www.shimada-ta.jp/spot.php?s\\_id=34](http://www.shimada-ta.jp/spot.php?s_id=34)

【アクセス】

(お車で) 東名相良牧之原ICより約10分



### 19. 道の駅フォーレなかかわね 茶茗館

川根本町の暮らし、自然、産物などについて、お茶をキーワードに紹介する施設です。

1階は、地域住民によるイベント開催や手づくり作品の発表等、情報交換や交流の場となる多目的スペースを中心に、お茶や街の情報を知ることができます。喫茶カウンターでは川根本町名物のお菓子をお茶うけに、美味しいお茶を味わうことができ、2階には、貴重な出土品や文献が展示されており、縄文時代から続く川根本町の歴史や数百年の伝統を持つ茶葉の歴史に触れることができます。



道の駅フォーレなかかわね茶茗館

標原郡川根本町水川71-1

0547-56-2100

<http://www.okuool.gr.jp/wordpress/chameikan/>

【アクセス】

(お車で) 東名相良牧之原ICより約1時間10分、国道

1号島田市より約1時間

(電車で) 大井川線「駿河徳山駅」より徒歩約10分

【休館日】水曜日・祝日の翌日・年末年始(12/29~1/3)  
【営業時間】9:30~16:30



中條景昭



### 17. 中條景昭像(中條景昭像公園内)

中條景昭は、嘉永7年(1854年)より13代将軍家定に仕え、家中の武士たちに剣術・柔術などを指南する剣客であったといわれています。慶応4年(1868年)、将軍徳川慶喜が大政奉還し江戸城から水戸に退く時、慶喜の護衛に当たった精鋭隊(のちに新番組)の一員として慶喜とともに駿府(静岡)へ下りました。徳川宗家を継いだ家達が藩知事となると新番組は使命を終えて解散したため、職を失った元武士達の新しい生活基盤を得るべく、当時荒地のまま未開であった金谷原(現牧之原)での茶農地開拓を勝海舟に談判。許可を受け、当初約250戸近くの土族とともに入植しました。慣れない農作業や過酷な環境に耐えきれず次々と離農者が相次ぎましたが、初心を曲げず、開墾方の頭として人々をまとめ、その後も開墾に励みました。また存命中には実現しませんでした。製茶会社を設立し、個々に製茶し

ていたものを数百haの茶を集めて共同製茶し、輸出を図りたい、さらに情勢によっては紅茶製造も考えたという大きな構想をもっていたといわれています。明治29年(1896年)1月19日に77歳で、生涯を捧げた牧之原の一番屋敷で死去しました。葬儀は、勝海舟を葬儀委員長として行われ、土族たちは中條の死を悲しんで3721日の間、墓参を続けたといわれています。昭和63年(1988年)、島田市は市制施行40周年と全国茶品評会を地元で開催したのを期に、中條景昭の偉業をしのび、中條屋敷跡地に立像と記念碑を建立し、「中條景昭像公園」として整備しました。今では大井川を望む夜景スポットとして親しまれています。



中條景昭像(中條景昭像公園内)

島田市阪本谷口上

0547-46-2844(島田市観光協会)

[http://www.shimada-ta.jp/spot.php?s\\_id=80](http://www.shimada-ta.jp/spot.php?s_id=80)

【アクセス】

(お車で) 東名吉田ICより約10分

(電車で) JR「六合駅」より徒歩約25分



### 23. 村松嘉蔵翁頌徳碑

明治時代の川根本町の有力茶商。横浜に「川根商店」を開き、外国商館に売り込むなど、川根茶の販路拡大に尽力しました。その功績を称えた頌徳碑が昭和39年(1964年)10月に建立されました。



**村松嘉蔵翁頌徳碑**  
 榛原郡川根本町下長尾  
 0547-56-2226 (川根本町役場産業課)  
<http://www.ooi-alps.jp/haihoku/data/201/201.html>  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉新東名島田金谷I.C.より約60分  
 〈電車で〉JR「金谷駅」より大井川鐵道「下泉駅」下車徒歩約10分

### 24. 中村光四朗顕彰碑

川根地域の茶の特性を生かした手揉み製法「川根揉切流」発案創始した人物。その後、川根茶業検査員となって川根茶の品質維持・向上に努めました。



**中村光四朗 顕彰碑**  
 榛原郡川根本町元藤川  
 0547-59-2746 (川根本町まちづくり観光協会)  
[www.ooi-alps.jp/haihoku/data/104/104.html](http://www.ooi-alps.jp/haihoku/data/104/104.html)  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉新東名島田金谷I.C.より約60分  
 〈電車で〉JR「金谷駅」より大井川鐵道「駿河徳山駅」下車徒歩約10分



### 25. 茶製人山本長右衛門碑

川根の手揉み技術者。揉切流の改良製茶法を確立した人で、後に数百人にのぼる弟子を育成した静岡県の手揉みの功業者です。



**茶製人山本長右衛門碑**  
 榛原郡川根本町東藤川  
 0547-59-2746 (川根本町まちづくり観光協会)  
<http://www.kawanecha.com/himitsu/kankyuu.php>  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉新東名島田・金谷I.C.より約75分

### 20. 蓬萊橋

明治2年(1869年)、幕臣達が牧之原を開墾し、お茶を作り始めたことにより、開墾者の強い要望でそれまで小舟で渡っていた大井川に明治12年(1879年)に生活用として架けられた橋。現在でも東岸の農家が対岸の茶園を管理するために、農道として蓬萊橋を利用しています。



**蓬萊橋**  
 島田市南2-22-14  
 0547-36-7170(島田市役所 農政課 土地改良係)  
<http://www.city.shimada.shizuoka.jp/kaiyo/houraihashi.html>  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉東名吉田I.C.より約16分  
 〈電車で〉JR「島田駅」より徒歩約25分



開拓農民の請願により架けられた世界最長の木造歩道橋

### 21. 牧之原大茶園

大井川下流の平野と菊川との間に広がる標高100mから200mの台地。島田を軸としてヤツデの葉のような地形で広がり、最南端の御前崎まで28kmも続きます。6000haという広大なスケールの大きさと素晴らしい景観で知られています。



**牧之原大茶園**  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉東名相良牧之原I.C.より約10分  
 〈電車で〉JR「金谷駅」より徒歩25分、タクシーで約5分  
 (バスで) JR「金谷駅」より牧之原市自主運行バス「牧之原公園」バス停下車徒歩約3分



先人たちの苦勞と情熱が作り上げた東洋一の茶園地帯

### 22. グリンピア牧之原

製茶工場の見学や茶摘体験が楽しめるお茶の総合施設。お茶料理を提供する食事処「丸尾原」やお茶の試飲ができる売店が併設されています。



**グリンピア牧之原**  
 牧之原市西萩間1151  
 0548-27-2995(運営：株式会社喜作園)  
<http://grinpia.com/>  
**【アクセス】**  
 〈お車で〉東名相良牧之原I.C.より約15分、JR「金谷駅」より約20分、JR「菊川駅」より約15分  
 (バスで) JR「金谷駅」より牧之原市自主運行バス「西萩間上」バス停下車



【休業日】火曜日、年末年始  
 【営業時間】10:00～17:00





## 29. ①阪本調整水槽 ※他多数の設置箇所あり。代表として上記2箇所を選択。 ②金谷28工区ファームポンド

ファームポンドとは農業用水貯留施設のことです。水源を持たない台地上にある牧之原の茶生産に、農業用水を安定的に供給しています。



- ①阪本調整水槽  
②金谷28工区ファームポンド

①島田市金谷富士見町3272 ②島田市金谷8367-39  
0547-36-8000 (牧之原畑地総合整備土地改良区)  
<http://midorinet-makinohara.com>

【アクセス】

〈お車で〉新東名島田金谷ICより約15分  
(バスで)JR「金谷駅」より島田市自主運行バス「お茶の郷」バス停下車



金谷28工区ファームポンド



阪本調整水槽



## 30. ①仲田源蔵像 (東町水神公園内) ②仲田源蔵報恩碑 (丸尾原水神宮内)

仲田源蔵は、失業した大井川の川越人足たちのため、私財を投じ手厚い援助の手をさしのべました。牧之原開墾事業に人足たちを幹施し、牧之原台地開拓の道を開いた功労者の一人です。



- ①仲田源蔵像 ②仲田源蔵報恩碑

①島田市金谷東2丁目 ②牧之原市西萩間  
<http://www.shizuoka-tokaido.com/map/map15.html>

【アクセス】

〈お車で〉①新東名島田金谷ICより約15分  
②東名相良牧之原ICより約10分



①仲田源蔵像



②仲田源蔵報恩碑



## 31. 伊佐新次郎書碑 (中條景昭像公園内)

伊佐新次郎は明治維新後、牧之原でお茶の開墾に従事した中條景昭の屋敷に起居し、私塾を開いて人々に漢書や書道を教え中條景昭を側面から支えました。



伊佐新次郎書碑 (中條景昭像公園内)

島田市阪本谷口上

0547-46-2844 (島田市観光協会)

[http://www.shimada-ta.jp/spot.php?c\\_id=33&p\\_num=2&PHPSID=83gpajj@jmb1cng3oe4k1k4](http://www.shimada-ta.jp/spot.php?c_id=33&p_num=2&PHPSID=83gpajj@jmb1cng3oe4k1k4)

【アクセス】

〈お車で〉東名吉田ICより約10分  
〈電車〉JR「六合駅」より徒歩約25分



## 26. 中山新道の道銭場跡

中山新道は、明治13年(1880年)杉本権蔵と川越人足により茶園開拓のため開設された国内最初の有料道路です。



中山新道の道銭場跡

島田市佐夜鷹91-2  
0547-35-3446 (島田市博物館文化財係)  
<http://www.city.shimada.shizuoka.jp/bunkazai/archives/shi/nakayama-shindou.html>

【アクセス】

〈お車で〉JR「金谷駅」より約8分



明治13年の中山新道料金表(複製)



## 27. 志戸呂焼と志戸呂焼ルーツ(上志戸呂古窯跡)

①利陶窯 ②志戸呂焼道窯 ③質佐窯 ④遺州七窯 志戸呂焼 白幡風悦 ⑤天真窯

島田市金谷(旧金谷町)で焼かれる陶器。歴史は古く室町時代に遡り、美濃の陶工が焼きはじめたのが最初と言われ、遺州七窯のひとつです。志戸呂焼に使う陶土は金谷一帯でとれ、鉄分が多く、なおかつ堅く焼けるので湿気を嫌う茶壺には最適な土と言われており、今でも主な製品として、抹茶や煎茶用の茶器が作られています。



志戸呂焼

静岡市葵区八番町7-1

054-252-4924 (静岡県郷土工芸振興会)  
<http://www.shizuoka-kougai.jp/019.html>

【アクセス】

〈お車で〉新東名島田金谷ICより約10分～20分



上志戸呂古窯跡



志戸呂焼ルーツ(上志戸呂古窯跡)

島田市志戸呂957-17  
0547-37-3446  
(島田市博物館文化財係)

【アクセス】

〈お車で〉新東名島田金谷ICより約8分



## 28. (独)野菜茶業研究所金谷茶業研究拠点

茶について、育種・栽培・品質・流通などに関する技術開発と、それを支える基礎的研究を行う機関です。



(独)野菜茶業研究所金谷茶業研究拠点

島田市金谷猪土居2769

0547-45-4105 (業務推進室 茶業チーム)

<http://www.naro.affrc.go.jp/vegetea/introduction/kanaya/index.html>

【見学日】月・水・金

【時間】9:00～16:00

【アクセス】

〈バス〉JR「金谷駅」より牧之原市自主運行バス「野菜茶業研究所」下車徒歩約1分  
※常時公開している施設ではありません。





### 35. 東名高速牧之原サービスエリア内の茶園

東名高速牧之原SA上り線の大型車駐車スペース側には全国でも珍しく、サービスエリア内に茶畑が造成されています。「茶の都 静岡」を実感できる景観が楽しめます。



東名高速牧之原サービスエリア内の茶園

牧之原市静谷2559-3  
牧之原SAサービスエリア上り線  
0548-27-2802 (サービスエリアコンシェルジュ)  
<http://www.c-nexco.co.jp/sapa/search/detail/1010aa006.html>



### 36. 村松吉平の碑(小堤山公園内)

明治時代の森町の茶商で横浜で活躍し、静岡茶の品質・信頼向上に貢献しました。相良油田の開発にも莫大な資金援助を行い日本初の石油探掘にも貢献した人物です。



村松吉平の碑

牧之原市波津632-6  
0548-53-2609 (牧之原市役所環境課)  
<http://www.city.makinohara.shizuoka.jp/bg/map/ent/3166.html>

【アクセス】

(お車で) 東名相良牧之原ICより約25分  
(バスで) JR「静岡駅」より静岡バス「相良営業所」バス停下車徒歩約10分



### 37. ヘリヤ商会感謝状英文碑(平田寺境内)

長年にわたり、品質の良いお茶を生産していた牧之原の今村茂兵衛らの功績を称え、アメリカ商館「ヘリヤ商会」が大正4年(1915年)に建立した英文の石碑。



ヘリヤ商会感謝状英文碑(平田寺境内)

牧之原市大江459  
0548-52-0492

【アクセス】

(お車で) 東名相良牧之原ICより約25分  
(バスで) JR「藤枝駅」より静岡バス「新橋」バス停下車徒歩約15分



「ヘリヤ商会」創業者のフレデリック・ヘリヤ



### 32. 製茶元祖坂本藤吉頌徳碑(伊久美農村改善センターやまびこ内)

坂本藤吉は、川根茶の製法に宇治の手法をとり入れ、普及につくした人と言われています。その功績を伝えるため出身地である伊久美に頌徳碑が建立されています。



製茶元祖坂本藤吉頌徳碑

(伊久美農村改善センターやまびこ内)

島田市伊久美3300

【アクセス】

(お車で) 新東名島田金谷ICより約40分  
(電車で) JR「島田駅」より島田市自主運行バス「やまびこ」バス停下車



### 33. 旧伊久美銀行・現二俣公会堂

幕末から高級手揉み茶の産地として知られていた伊久美・大久保地域に、地元茶農家の出資により設立した物流会社が元となった銀行です。現在は二俣公会堂として利用されています。



旧伊久美銀行・現二俣公会堂

島田市伊久美1019

【アクセス】

(お車で) 新東名島田金谷ICより約32分  
(バスで) JR「島田駅」より島田市自主運行バス「二俣」バス停下車



### 34. 富士山静岡空港 しずおか茶おもてなしコーナー

日本茶インストラクターや県内各茶産地の方々が、心を込めて淹れたおいしい静岡茶を、カウンター席で無料で味わっていただけます。また、お茶を飲みながら、茶の特徴や効能、歴史などの会話もお楽しみいただけます。



富士山静岡空港 しずおか茶おもてなしコーナー

牧之原市坂口3336-4  
富士山静岡空港 客室ターミナルビル2階  
0548-29-2000

<http://www.mtfuji-shizuokaairport.jp/facility/public/index.html#p2>

【アクセス】

(お車で) 新東名島田金谷ICより約15分、東名吉田ICより約12分、東名相良牧之原ICより約10分







玉露の里「瓢月亭」



### 38. 道の駅 玉露の里・玉露茶園

玉露の産地として知られる旧岡部町(現藤枝市)が平成3年(1991年)に開設した施設です。施設内には土産物・レストランコーナーを併設する「茶の華亭」比数寄屋造り風の「瓢月亭」があります。「瓢月亭」では落ち着いた雰囲気の中で、玉露(又は抹茶)とおいしい茶菓子を楽しむことができます。



玉露の里「茶の華亭」



道の駅 玉露の里  
藤枝市岡部町新舟1214-3  
054-668-0019  
<http://www.gyokuronosato.jp/>

【アクセス】  
〈お車で〉東名焼津I.Cより約20分、新東名藤枝岡部I.Cより約15分  
〈バスで〉JR「焼津駅」→「藤枝市役所岡部支所前」より静鉄バス「玉露の里」バス停下車

【休業日】年末年始  
【営業時間】10:00~17:00



玉露茶園

旧岡部町(現藤枝市)は、京都(宇治)福岡(八女)とらんで玉露の日本三大産地に数えられています。岡部町の朝比奈地区で玉露が栽培され始めたのは明治頃からと言われ、意外と近年になってからでした。様々な先人たちの努力の結果、玉露茶が岡部に広がり戦後の品評会では優秀な成績をおさめ、全国にその名を知られるようになりました。



# 藤枝岡部エリア

ふじ入だ・おかべ





## 41. 旧藤枝製茶工場跡

明治時代以降に栄えた藤枝の製茶工場跡です。現在は当時の姿のまま、ステージ観客席が茶箱で作られたイベント会場があります。また、一角には喫茶スペースもあります。



### 旧藤枝製茶工場跡

藤枝市茶町2-2-21  
054-643-3078 (藤枝市商業観光課)  
054-641-0045 (株式会社 一言)  
<http://www.47club.jp/18M-000028>

【アクセス】  
〈電車で〉JR「藤枝駅」より徒歩約30分



茶箱でつくられたイベント会場は当時の姿が活かされています。



## 39. 旧藤枝製茶貿易会社

明治34年(1901年)に建設された3階建ての洋館。旧藤枝製茶貿易株式会社事務所で、お茶の輸出が盛んだったころお茶の拝見場や事務所として使用されました。

2階の棟瓦の先には、茶の文字の紋章があります。お茶のまちを象徴する建物です。  
※個人所有のため、内部の見学はできません。



### 旧藤枝製茶貿易会社

藤枝市藤枝5丁目  
054-643-3111 (藤枝市役所観光課)  
[http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/kyodomuse\\_tenji\\_topics\\_hakutenji\\_dollhouse2011\\_details.html](http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/kyodomuse_tenji_topics_hakutenji_dollhouse2011_details.html)

【アクセス】  
〈お車で〉JR「藤枝駅」より約8分



## 42. 瀬戸ノ谷の大茶樹 (平口家所有)

県内最古の茶樹とされ樹齢約300年。樹高4m、周囲28mの大茶樹。毎年、生葉で約15kgの新茶を収穫。4月中旬～5月上旬に茶摘みをします。



### 瀬戸ノ谷の大茶樹

藤枝市瀬戸ノ谷10550  
054-645-2500 (藤枝市観光案内所)  
<http://www.fujieda.gr.jp/>

【アクセス】  
〈お車で〉新東名島田金谷I.Cより約60分、新東名藤枝岡部I.Cより約70分



## 40. 蘭字ギャラリー (株式会社 西野商店 倉庫内)

日本の美しいセンスが光る輸出茶ラベル「蘭字Ranji」。ラベルは上質薄紙で当時の最先端のファッションや珍しい動物や鳥、園芸花の絵、JAPAN TEA、輸出元名と住所、数量等がデザインされていました。



蘭字ギャラリー(株式会社西野商店)  
※事前連絡後、随時公開(新茶シーズンを除く)

藤枝市茶町1-2-17  
054-641-0041  
<http://www.meicha.co.jp/otakara.html>

【アクセス】  
〈バスで〉JR「藤枝駅」より静鉄バス「鬼岩寺入口」バス停下車徒歩約5分







### 43. 足久保の段々茶園と狐石

静岡茶は駿河国安倍郡柘沢に生まれた鎌倉時代の高僧、聖一国師が宋から持ち帰った茶の実を足久保で栽培したことから始まったといわれています。足久保は江戸時代の初めには御用茶として将軍家に上質な煎茶を納めていました。足久保の段々茶畑は地域の人が11年をかけてもっこで石を担ぎ上げるなどして、作った茶畑です。段々茶畑の近くに立つ狐石は、御用茶が中止され一時衰退していた足久保茶を復興させ、竹茗堂を始めた山形屋庄八によって天明8年(1788年)に建立されたものです。狐石には茶の栽培方法と芭蕉の「駿河路や花橋も茶の匂ひ」の句が刻まれています。



足久保の段々茶園と狐石

静岡市葵区足久保奥組

054-294-8805

(静岡市中山間地振興課)

<http://www.okushizuoka.jp/100sen/spot/000878.html>

【アクセス】

〈お車で〉JR「静岡駅」より約40分

〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「口長島」バス停下車



狐石







#### 45. 旧マッケンジー邸

静岡茶の輸出に力を注いだ貿易会社A.P.アーウィン商会の日本支店に勤務したダンカン・J.マッケンジー夫妻の住宅として建設されました。静岡市の名誉市民第1号となったエミリー・マーガレッタ夫人が昭和47年(1972年)まで住んでおり、帰米に際し、静岡市に寄贈されました。



旧マッケンジー邸

静岡市駿河区高松2852  
054-221-1066 (静岡市文化財課)

[http://www.city.shizuoka.jp/deps/bunkazai/bunkazai\\_hogo\\_mackenzie\\_index.html](http://www.city.shizuoka.jp/deps/bunkazai/bunkazai_hogo_mackenzie_index.html)

【アクセス】

(お車で) JR「静岡駅」より約13分

【休館日】月曜日、年末年始

【開館時間】8:30~17:00



平成15年に復元されたお茶壺屋敷



久能山東照宮



お茶壺行列の様子



#### 44. お茶壺屋敷とお茶壺道中

静岡市は、慶長8年(1603年)に江戸幕府を開いた徳川家康(1542~1616年)が晩年を過ごした地です。慶長12年(1607年)、家康は駿府城へ入城して隠居の身となり、以後、茶の湯を楽しみました。家康は安倍奥の井川大日峠にお茶壺屋敷(お茶蔵)を設け、「御用茶」として安倍茶(後に「本山茶」と呼ばれる)を茶壺に詰めて、風味が損なわれないよう保管を命じました。家康は、標高1200mの冷涼な環境にあるお茶蔵で夏の暑さから守られたお茶を秋の彼岸の頃に駿府城に運ばせ、味わい深い風味を楽しんだと言われています。

静岡市では、毎年(10月下旬)、井川から久能山東照宮までお茶を運ぶ「駿府お茶壺道中行列」の一部が華やかに再現されます。



お茶壺屋敷跡

静岡市葵区口坂本字水神堂  
[http://www.shizuoka-crb.or.jp/oogoshou400/study/07\\_49.htm](http://www.shizuoka-crb.or.jp/oogoshou400/study/07_49.htm)

【アクセス】

(お車で) 新東名新静岡I.C.より約80分



#### 46. 聖一国師生誕碑

聖一国師は京都に東福寺を開くなど仏教への貢献が認められ、日本で最初に国師の号を賜った高僧です。

静岡茶は、駿河国安倍郡柗沢に生まれた聖一国師が宋から茶の実を持ち帰り、静岡市足久保で栽培をしたことから始まったといわれています。

この碑は昭和7年(1932年)に国師650年遠忌法要を記念して、聖一国師の生家である柗沢の米沢家の近くに建立されたものです。



聖一国師 生誕碑

静岡市葵区柗沢  
054-294-8805 (静岡市中山間地振興課)

<http://www.okushizuoka.jp/100sen/spot/000877.html>

【アクセス】

(お車で) 新東名新静岡SAスマートI.C.より約40分



## 49. 吐月峰柴屋寺

室町時代の連歌師・宗長が開いた禅寺。京都銀閣寺を模した庭園は国の名勝・史跡に指定されています。庭園内には草庵茶室「柴屋軒」があり、月の名所としても有名です。



### 吐月峰柴屋寺

静岡市駿河区丸子3316  
054-259-3686

[http://hellonavi.jp/shizuoka/shizuoka\\_cv/shisetsu/297.html](http://hellonavi.jp/shizuoka/shizuoka_cv/shisetsu/297.html)

### 【アクセス】

(お車で) 東名静岡I.Cより約16分。

(バスで) JR「静岡駅」より静鉄バス「吐月峰観音匠宿入口」バス停下車徒歩約10分



## 50. 築地光太郎・大棟藤吉碑

### 【築地光太郎】

藁科川奥の清沢出身の茶業家。「本山茶」の名付け親として名高い人物。玉露の手揉茶を品評会に出品し、見事1等を受賞し、宇治産よりも品質が高いと評価されました。



### 【大棟藤吉】

茶品種「オオムネ」の育成者。築地光太郎氏と共に茶の品評会で数多く受賞し静岡茶業に貢献した人物です。



### 築地光太郎・大棟藤吉碑

静岡市葵区相俣  
[www.ocha.or.jp/minyoku/shizuokatea.html](http://www.ocha.or.jp/minyoku/shizuokatea.html)

### 【アクセス】

(お車で) 新東名静岡SAスマートI.Cより約25分

(バスで) JR「静岡駅」より静鉄バス「相俣」バス停下車

## 47. やぶきた原樹

「やぶきた」はお茶の品種の名称です。杉山彦三郎が茶の品種改良のため優良な種子を選び、現静岡市駿河区谷田の試験地に隣接した中林という地区の、藪を開墾して播種しました。明治41年(1908年)、その中から2本の優良系統を選抜し、北側のものを「やぶきた」、南側のものを「やぶみなみ」と命名しました。その後、取り木によって増殖され各地で試作されました。昭和6年(1931年)頃よりその樹勢や品質の優秀性が認められます。しかし、本格的に普及をみたのは戦後になってからのことでした。この原樹は、昭和38年(1963年)静岡県天然記念物に指定されました。日本全国にある「やぶきた」のすべてがこの原樹から分かれたものです。



### やぶきた原樹

静岡市駿河区谷田53-2  
県立美術館入り口付近  
<http://www.ja-shizuoka.or.jp/shizuoka/chagyo/syurui/rekisi.htm>

### 【アクセス】

(電車で) JR「草薙駅」より徒歩約16分

## 48. 多田元吉碑(起樹天満宮内)

紅茶の製造方法を確立し日本茶業の発展に尽くした人物です。明治初期に静岡市丸手に広大な茶園を開き日本人で初めて中国、インドの茶産地を巡り、お茶の種、製造技術などを日本にもたらしました。



### 多田元吉碑(起樹天満宮内)

静岡市駿河区丸子6850  
054-251-5880

### 【アクセス】

(バスで) JR「静岡駅」より静鉄バス「赤目ヶ谷」バス停下車徒歩約2分





## 54. 静岡茶市場

茶の取引・委託販売を行っている市場です。ここでの年間取扱数量は全国荒茶生産のほぼ10%を占めています。事務処理は完全にコンピュータ化しており、その市況をHPで提供しています。



静岡茶市場  
静岡市葵区北番町94  
054-271-2111  
[http://www.across.or.jp/chaitiba/hp002\\_001.htm](http://www.across.or.jp/chaitiba/hp002_001.htm)

【アクセス】  
〈お車で〉東名静岡I.Cより約15分、新東名新静岡I.Cより約20分  
〈電車で〉JR「静岡駅」より静鉄バス「静岡厚生病院」バス停下車徒歩3分  
※常時公開している施設ではありません。



## 55. (社) 静岡県茶手揉保存会

機械製茶の基礎となる手揉技術を伝えるための組織。かつて30ほどあった手揉みの流派のうち、今日まで残る流派が文化財指定を受けています。手揉み茶は、加温した焙炉の上で、茶葉を3~4時間かけて揉みながら乾燥させて仕上げます。



(社) 静岡県茶手揉保存会  
静岡市葵区北番町94静岡茶市場  
054-272-2714

【アクセス】  
〈お車で〉東名静岡I.Cより約15分、新東名新静岡I.Cより約20分  
〈電車で〉JR「静岡駅」より静鉄バス「静岡厚生病院」バス停下車徒歩3分



## 56. 茶師の幟(のぼり)

茶師と手揉み流派名を書いた大きな幟(のぼり)で各流派の弟子が師匠に贈ったものです。製茶職人は静岡県では茶師と呼ばれ、製茶技術の競い合いから流派を名乗るようになりました。



(社) 静岡県茶手揉保存会  
静岡市葵区北番町94静岡茶市場  
054-272-2714

【アクセス】  
〈お車で〉東名静岡I.Cより約15分、新東名新静岡I.Cより約20分  
〈電車で〉JR「静岡駅」より静鉄バス「静岡厚生病院」バス停下車徒歩3分



## 51. 縁側お茶カフェ〈大間地区〉

静岡市の北部中山間地、大間の小さな集落で開催されている「縁側お茶カフェ」。毎月第1・第3日曜日に全5世帯が縁側を解放し地元のお茶やお茶請けでもてなしてくれます。



縁側お茶カフェ(大間地区)  
静岡市葵区大間  
[http://www.chiki-dukuri-hyakka.or.jp/1\\_all/jirei/2013\\_guidebook/case/sizuoka.html](http://www.chiki-dukuri-hyakka.or.jp/1_all/jirei/2013_guidebook/case/sizuoka.html)  
【アクセス】  
〈お車で〉JR「静岡駅」より約90分



### ★縁側お茶カフェのご案内★

【開催日時】毎月第1・3日曜日/11:00~15:00まで  
【体 験 料】300円(お茶・お茶請けのサービス付き)  
※お茶とお茶請けは各世帯からの「サービス」であるため、決まったメニューはなく、「その時に、その家に」あるものが提供されます。各回の開催についても任意なので、都合が悪ければ開催しない世帯もあります。



### ★縁側お茶カフェのご案内★

【開催日時】毎月第2・4日曜日/  
10:00~15:00まで(4月~10月)・~14:00まで(11月~3月)  
【体 験 料】300円(お茶・お茶請けのサービス付き)  
※お茶とお茶請けは各世帯からの「サービス」であるため、決まったメニューはなく、「その時に、その家に」あるものが提供されます。各回の開催についても任意なので、都合が悪ければ開催しない世帯もあります。

【アクセス】  
〈お車で〉JR「静岡駅」より約40分。  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「大沢入口」バス停下車徒歩約20分。



## 52. 縁側お茶カフェ〈大沢地区〉

静岡市北部の中山間地、玉川地区の大沢で開催されている「おさわ縁側カフェ」。ゆっくりのんびり、縁側でお休みいただきながら、お茶やコミュニケーションを満喫できます。※実施農家の軒先にある「のぼり旗」が目印です。



縁側お茶カフェ(大沢地区)  
静岡市葵区大沢  
054-292-2656 (大沢振興会)  
<http://tsunagari-osawa.com/268>



## 53. 賤機(しずはた)焼「秋果陶房」

賤機焼(しずはたやき)は、静岡の伝統工芸品の一つで、静岡市が産地です。江戸初期に太田七郎右衛門によって開陶、徳川家康より「賤機焼」の称号をうけ、御用窯として繁栄しました。「志づやしづ しずはた焼に 汲め清水」と小林一茶が句に詠んでいます。



賤機焼(窯元 秋果陶房)  
静岡市葵区柳町95  
054-271-2480 (志づは多焼き「秋果陶房」)  
【アクセス】  
〈お車で〉新東名新静岡I.Cより約20分  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「柳町」バス停下車徒歩約3分







## 60. 俵沢のつづら折り茶園

一級河川安倍川の支流である大沢川右岸の山裾に広がる平均標高250m、面積約5haの段々茶園です。この茶園の起源は約500年前と言われ、野面積みという工法で造成された野面石積茶園とその中を縫うように整備された道路が特徴の茶園で、平成11年(1999年)、静岡市で唯一「静岡県棚田等十選」に選ばれました。



**俵沢のつづら折り茶園**  
静岡市葵区俵沢  
054-221-2757 (静岡県農地保全課)  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kansetsu/ke-630/tanada/tanada-10.html>  
【アクセス】  
〈お車で〉JR「静岡駅」より約1時間  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「俵沢」バス停下車



## 57. 茶町の茶蔵(個人所有)

江戸時代末期、お茶屋を営んでいた小長井氏が当時使用していたお茶の蔵が今でも大事に保存されています。この建物の土台には赤いレンガが使われており、当時のままの状態が残っています。  
※個人所有のため、内部の見学はできません。



**茶町の茶蔵**  
静岡市葵区土太夫町  
【アクセス】  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「安西二丁目」バス停下車

## 61. 海舟庵(曹洞宗 宝寿院)

徳川宗家が静岡に移封された際に世話役として共に移り住んだ幕末明治の政治家勝海舟が寓居として使用したものです。



**海舟庵(曹洞宗 宝寿院)**  
静岡市葵区門屋639  
054-294-0118  
【アクセス】  
〈お車で〉新東名新静岡ICより約10分  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「門屋」バス停下車

## 58. 円通大応国師産湯の井

円通大応国師が生まれたときに産湯を汲んだといわれる井戸。円通大応国師は鎌倉時代の臨済宗の僧で、修行をしていた径山萬寿寺(中国杭州市)から風炉、釜等の茶道具一式や茶に関する書物を持ち帰り、これらの道具を用いた中国風の茶礼、闘茶の風習を日本に伝えました。



**円通大応国師産湯の井**  
静岡市葵区井宮町86  
【アクセス】  
〈お車で〉新東名新静岡ICより約10分  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「井の宮局前」バス停下車



## 62. 阪本藤吉製茶之碑(静岡浅間神社境内)

駿河国志太郡伊久美(現在の静岡県島田市伊久美)出身で江戸時代後期の茶製造業者。藤吉は永谷宗圓の開発した「宇治製法」の技術を、当時茶製造の後進地であった川根・伊久美の地に導入するため東奔西走し、苦心の末宇治の製茶師又兵衛ほか数名を伊久美に招き、私財を投じて伝習所を開設し、技術者の養成に努めました。



**阪本藤吉製茶之碑(静岡浅間神社境内)**  
静岡市葵区宮ヶ崎町102-1  
054-245-1820(代)  
【アクセス】  
〈お車で〉新東名新静岡ICより約15分、東名静岡ICより約15分  
〈バスで〉JR「静岡駅」より駿府浪漫バス「赤鳥居」浅間神社」バス停下車



## 59. 臨済寺茶祖堂・聖一国師木像

臨済寺は幼少期の徳川家康が人質として過ごした寺。境内には臨済寺茶祖堂があり、茶祖「栄西禅師」「聖一国師」「大応国師」の三国師が祀られています。  
※修行寺のため、通常一般公開はされておられません。



**臨済寺茶祖堂・聖一国師木像**  
静岡市葵区大岩町7-1  
054-245-2740  
[http://www.shizuoka-cvb.or.jp/oogoshoh400/study/07\\_31.htm#](http://www.shizuoka-cvb.or.jp/oogoshoh400/study/07_31.htm#)  
【アクセス】  
〈バスで〉JR「静岡駅」より静鉄バス「臨済寺」バス停下車





## 66. もみじ亭 (駿府城公園紅葉山庭園)

駿府城公園紅葉山庭園内にある茶室。庭園来園者に有料で静岡県産の抹茶や煎茶の提供をしています。



もみじ亭(駿府城公園紅葉山庭園)  
静岡市葵区駿府城公園1-1  
054-251-0016  
<http://www.sunpu-park.jp/chashitsu.html>  
【休 園 日】年末年始、月曜日(祝日は営業)  
【開園時間】9:00~16:30

【アクセス】  
(お車で) 東名静岡ICより約20分  
(徒歩で) JR「静岡駅」より約15分、静岡鉄道「新静岡駅」より約10分



## 67. 静岡市茶町

お茶を好んだ徳川家康が駿府城下町に茶の取引を専門とする町を作ったことが茶町の始まりです。明治時代以降茶の輸出の基地、日本の茶流通の中心地として発展しました。現在も茶町周辺は多くの茶問屋が軒を連ねています。



【アクセス】  
(バスで) JR「静岡駅」より  
「八千代町」バス停下車



駿府96ヶ町  
茶町の石碑



## 63. ① 丸尾翁頌徳碑 (静岡浅間神社境内) ② 丸尾文六碑 (丸尾原水神宮内)

明治初期、大井川の川越人足の失業対策として牧之原の開墾、茶の栽培をおこない、製茶の直輸出をこころみた人物です。



丸尾文六



①丸尾翁頌徳碑(静岡浅間神社境内)  
静岡市葵区宮ヶ崎町102-1  
054-245-1820 (代)  
【アクセス】  
(お車で) 新東名新静岡ICより約15分  
(バスで) JR「静岡駅」より駿府浪漫バス「赤鳥居」「浅間神社」バス停下車



②丸尾文六碑(丸尾原水神宮内)  
牧之原市西萩間  
【アクセス】  
(お車で) 東名相良牧之原ICより約10分  
(バスで) JR「菊川駅」より菊川市自主運行バス「丸尾原神社」バス停下車



①從三位関口君之碑  
(静岡浅間神社境内)  
静岡市葵区宮ヶ崎町102-1  
054-245-1820 (代)  
【アクセス】  
(お車で) 新東名新静岡ICより約15分  
(バスで) JR「静岡駅」より駿府浪漫バス「赤鳥居」「浅間神社」バス停下車



②関口隆吉顕彰碑  
(月岡八穂神社)  
菊川市月岡  
【アクセス】  
(お車で) 東名菊川ICより約10分  
(バスで) JR「菊川駅」より菊川市自主運行バス「月岡公民館」バス停下車



## 64. ① 從三位関口君之碑 (静岡浅間神社境内) ② 関口隆吉顕彰碑 (月岡八穂神社)

幕末期の徳川家臣であり明治時代の政治家。初代静岡県知事。江戸城の開城にも立ち会い、大政奉還後に牧之原大茶園の開拓に心血を注ぎました。



関口隆吉



## 68. 喫茶一茶

「静岡茶」のアンテナショップとして、静岡市内の茶流通業者でつくる静岡茶商工業協同組合が運営する日本茶のカフェ。参画する組合員約50店舗のお茶を500円均一で販売しています。



喫茶一茶  
静岡市葵区黒金町49-1  
JR静岡駅北口地下広場  
054-253-0030  
【営業時間】10:00~19:00  
【定休日】水曜  
(祝日の場合は翌営業日)

【アクセス】  
(徒歩で) JR「静岡駅」より地下へ約1分



市内各種のお茶が並びます。



## 65. 杉山彦三郎の胸像 (駿府城公園内)

茶の優良品種「やぶきた」を発見した功労者。茶の品種という概念がなかった時代に茶の品種改良が茶業改善の基盤であることを唱え、多くの品種を選択し、茶業者の品種改良に対する意識高揚に努めました。



杉山彦三郎の胸像(駿府城公園内)  
静岡市葵区駿府城公園1-1  
054-251-0016  
[http://www.o-cha.net/japan/Teacha/detail\\_j.asp?id=107](http://www.o-cha.net/japan/Teacha/detail_j.asp?id=107)  
【アクセス】  
(徒歩で) JR「静岡駅」より約20分







## 72. 大谷嘉兵衛像 (清水山公園内)

明治初期から対象にかけて、日本の茶業界のリーダーとして、それまで外国人茶商だけで行われていた茶の再生直輸出をはじめとして、米国における茶税廃止に尽力するなど大きな足跡を残しました。



大谷嘉兵衛像 (清水山公園内)

静岡市葵区音羽町27  
054-221-1433 (静岡市公園整備課)  
<http://koen.city.shizuoka.jp/detail.php?id=81>

【アクセス】

(電車で) 静岡鉄道「音羽町駅」より徒歩約1分



## 69. 静岡駅構内の茶樹

お茶どころ静岡の駅前景観の一部として、平成21年(2009年)4月、駅周辺の改装工事の際に静岡駅北口ロータリーを中心に植栽されました。



静岡駅構内の茶樹

静岡市葵区黒金町49  
JR静岡駅北口バスロータリー

【アクセス】

JR「静岡駅」構内



## 73. グランシップの茶園

グランシップ西側広場に広がる記念茶樹は、第1回世界お茶まつりの開催を記念するとともに、静岡県の振興に貢献した先人の偉業を後世に伝えるため、10品種を選定し、平成13年(2001年)10月8日に植えられました。



グランシップの茶園  
静岡市駿河区池田79-4  
054-203-5710 (グランシップ)  
<http://www.granship.or.jp/>

【アクセス】

(電車で) JR「東静岡駅」より徒歩約1分



## 70. しずおかO-CHAプラザ

多くの方に静岡茶の魅力を知っていただくための情報発信拠点です。県内産地の緑茶の体験やお茶の知識を学んだり、またお茶に関する資料の閲覧もできます。常駐の日本茶インストラクター、アドバイザーが、産地や特徴にあったおいしい緑茶の淹れ方を随時解説、お客様の質問にもお答えします。産地や品種による、お茶の味と香りの違いを堪能できます。



しずおかO-CHAプラザ

静岡市駿河区南町14-1  
水の森ビル3階  
054-202-1488  
<http://www.o-cha.net/japan/plaza/index.html>

【アクセス】

(徒歩で) JR「静岡駅」より徒歩約2分



しずおかO-CHAプラザ

【開館時間】9:30~16:30  
(入場は16:00まで)  
★土日祝日および年末年始  
(12月29日~1月3日)は休業



## 74. 杉山彦三郎記念茶畑 (静岡県立美術館 プロムナードの茶樹)

杉山彦三郎は、茶の品種という概念が普及していなかった明治時代に、独自の研究を続け、苦勞の末に優良種「やぶきた」を生み出した人物です。その試験畑があったのが現在県立美術館が建つ谷田の地であり、記念茶畑には、彼が世に送り出した選抜品種のうち13種類の貴重な茶原木が植えられています。



杉山彦三郎記念茶畑  
(静岡県立美術館 プロムナードの茶樹)

静岡市駿河区谷田53-2  
彫刻プロムナード一角  
054-263-5755 (県立美術館)  
<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/japanese/access/>

【アクセス】

(電車で) JR「草薙駅」より徒歩約19分



## 71. 静岡鉄道 (新静岡駅)



現在の新静岡駅



当時の静岡鉄道

旧静岡市の安西地区に集積する製茶問屋から、清水港へお茶を輸送する目的で、明治39年(1906年)に設立された貨物鉄道会社の旧静岡鉄道が前身。その後大日本軌道静岡支社の路線となっていた路線を譲り受け、大正8年(1919年)に駿遠電気が設立されました。大正12年(1923年)に静岡電気鉄道に社名変更し、昭和18年(1943年)に「静岡鉄道」となりました。茶の輸送目的で設置された貨物鉄道も現在は静岡-清水間を結ぶ公共機関です。写真の新静岡駅は、平成23年(2011年)に、駅ビル型複合商業ビル新静岡セノバとして生まれ変わっています。



静岡鉄道 (新静岡駅)

静岡市葵区鷹匠1-1-1  
静鉄鷹匠ビル  
054-254-5111  
<http://www.shizutetsu.co.jp/>

【アクセス】

(徒歩で) JR「静岡駅」より徒歩約7分





## 78. フェルケール博物館

フェルケール博物館は、お茶の海外直輸出をきっかけに国際貿易港に指定された清水港を中心に、港の生い立ちから現在までを展望できる「船と港の博物館」です。



フェルケール博物館  
静岡市清水区港町2-8-11  
054-352-8060  
<http://www.suzuyo.co.jp/suzuyo/verkehr/>

【休館日】月曜日  
【開館時間】9:30～16:30

【アクセス】  
〈バスで〉JR「清水駅」または静岡鉄道「新清水駅」より  
静鉄バス「フェルケール博物館」バス下車徒歩約1分



## 79. 清見寺

約1300年前に開かれた臨済宗妙心寺派の寺。寺には千利休のものといわれる茶杓や、徳川家康の茶碗などが残されています。また、清見寺一帯は室町時代の書物である「異制庭園往来」にもその名が出てくるほど、当時から茶産地として知られていました。



清見寺  
静岡市清水区興津清見寺町418-1  
054-369-0028  
<http://seikenji.com/>  
【アクセス】  
〈お車で〉静岡バイパス清見寺I.Cより約3分  
〈電車で〉JR「興津駅」より徒歩約15分  
〈バスで〉JR「清水駅」より静鉄バス「清見寺前」バス下車徒歩約1分



## 80. 御幸亭(由比本陣記念館)

「御幸亭」は明治天皇がご小休された離れ座敷で、由比本陣記念館として復元されました。茶室「結仁齋」や水屋などを備えた伝統的な和風建築で、憩いの場としてくつろぐことができます。



御幸亭(由比本陣記念館)  
静岡市清水区由比297-1  
054-375-6135  
[http://hellonavi.jp/shizuoka/shimizu\\_cv/shisetsu/239.html](http://hellonavi.jp/shizuoka/shimizu_cv/shisetsu/239.html)

【休館日】月曜日、休日の翌日  
【開館時間】9:00～17:00

【アクセス】  
〈お車で〉東名清水I.Cより約20分 〈電車で〉JR「由比駅」下車徒歩約25分



## 75. 聖一国師堂

聖一国師が宋から持ち帰った茶の種を挿いたことから静岡茶(本山茶)が始まったと言われています。その偉業に感謝し、この御堂に国師真像が安置されました。  
※非公開のため、見学はできません。



聖一国師堂  
静岡市清水区馬走北  
[www.ochakaido.com/rekisi/jinup/jinup07.htm](http://www.ochakaido.com/rekisi/jinup/jinup07.htm)

【アクセス】  
〈お車で〉東名清水I.Cより約15分  
〈電車で〉静岡鉄道「狐ヶ崎駅」より徒歩約10分



## 76. ちゃっきり節の碑

昭和41年(1966年)にちゃっきり節誕生40周年を記念して静岡鉄道が建立したものの。ちゃっきり節は昭和2年に静岡市清水区にあった旧狐ヶ崎遊園地のCMソングとしてつくられました。「ちゃっきり」という言葉は茶を刈るはさみの音にちなんだものです。



ちゃっきり節の碑  
静岡市清水区草薙597-8  
054-334-2828 (日本パークセンター)

【アクセス】  
〈お車で〉東名清水I.Cより約30分  
〈バスで〉JR「東静岡駅」より「日本平ロープウェイ」バス停下車



## 77. 海野孝三郎の碑(清水マリンパーク内)

静岡県議会議員や静岡県茶業組合取締所(現在の茶業会議所の前身)役員を歴任し、茶の品質向上や直輸出のための再製所設立や清水港の国際貿易港指定のために尽力しました。



海野孝三郎の碑  
(清水マリンパーク内)

静岡市清水区日の出町  
[http://www.city.shizuoka.jp/deps/nogyosinko/yusyutu\\_rekisi.html](http://www.city.shizuoka.jp/deps/nogyosinko/yusyutu_rekisi.html)

【アクセス】  
〈バスで〉JR「清水駅」または静岡鉄道「新清水駅」より静鉄バス「波止場」バス下車徒歩約1分







富士市大淵の茶畑



### 81. 富士市大淵の茶畑と清水次郎長開墾記念碑 (白髭神社内)

清水次郎長は「街道一の親分」としてその名を知られているが、明治に入り富士山麓を開拓し茶の栽培や輸出に取り組みました。当時、寒冷地に適する茶品種が開発されていなかったこともあり、茶の栽培は失敗に終わりましたが、その後静岡県内の他地域からの入植者の努力により、現在は「富士茶」の産地となっています。富士市大淵地区には次郎長町という地名があり、町内にある白髭神社には次郎長開墾記念碑が立っています。また、周辺は茶畑と富士山の撮影スポットとなっており、県内外から多くの写真愛好家が訪れています。

※茶畑は個人の所有地です。撮影はマナーを守って行って下さい。



清水次郎長開墾記念碑(白髭神社内)



清水次郎長開墾記念碑 (白髭神社内)

富士市大淵4205-9

<http://www.city.fuji.shizuoka.jp/ct/other000018300/730-16.pdf>

【アクセス】

〈お車で〉JR「富士駅」より約30分

# 富士・沼津・裾野 エリア

ふじ・ぬまつ・すその







## 茶の都 しずおか

2013年10月発行

発行：静岡県経済産業部 農林業局 茶業農産課  
〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1 水の森ビル3階  
TEL：054-202-1488

○本誌掲載のデータは2013年10月末日現在のものです。発行後に料金や営業時間、休日など内容が変更になる場合もあります。また、天候などの諸事情により、臨時休業になる可能性もありますので予めご了承ください。  
○無断転載は禁じます。

本書制作にあたり、取材や撮影、執筆などでご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

静岡県茶業農産課

検索

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-340/cha/>

### 83. 天下一製法

富士郡比奈村出身の野村一郎によって生み出された製法。名前の由来は横浜の外国人茶商から「天下一品茶製所」の肩額を送られたことによるものです。



野村一郎



天下一製法(富士のお茶振興推進協議会・富士市茶手揉保存会)

富士市永田町1丁目100  
0545-55-2781(富士市農政課)  
<http://fuji-ocha.com/modules/tinyd/index.php?id=41>

【アクセス】

(お車で) 東名富士I.Cより約10分  
(バスで) JR「新富士駅」、JR「富士駅」より富士急静岡バス「富士市役所」バス停下車  
JR「吉原中央駅」バス下車徒歩10分

### 85. 江原素六像 (江原素六先生 記念公園内)

愛鷹山の開墾、茶園造成、製茶技術の向上を指揮し、「愛鷹茶」の基礎を築きました。教育にも力を注ぎ、静岡県東部地域の発展に尽力しました。公園内には他に江原素六碑や明治資料館があります。



江原素六像  
(江原素六先生記念公園内)  
沼津市西熊堂372-1  
0559-23-3335(沼津市明治史料館)  
<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/meiji/index.htm>

【アクセス】

(お車で) 東名沼津I.Cより約20分  
(バスで) JR「沼津駅」より沼津登山東海バス「江原公園」バス停下車

### 82. ただにしきの茶園

日本の紅茶の祖といわれる多田元吉がインド、中国から持ち帰った茶の種を静岡県茶業試験場が改良した紅茶用品種。昭和30年(1955年)代には広く栽培されていましたが、国産紅茶の栽培減少により生産量が激減。現在は不二聖心女子学院のキャンパス内にある農園で生産販売が続けられています。



ただにしきの茶園  
(学校法人聖心女子学院不二農園)  
裾野市桃園198  
055-922-0213  
<http://www.seishin-fujinouen.jp/>

【アクセス】

(お車で) 東名沼津I.Cから約30分

### 84. 翠松亭 (沼津御用邸 記念公園)

沼津御用邸は明治26年(1893年)年、大正天皇(当時は皇太子)のご静養のために造営されました。その後、沼津市が沼津御用邸記念公園として開設しました。東附属邸にある公共茶室「翠松亭」のほか、京都大山崎の国宝茶室「待庵」に忠実に写した「駿河待庵」があり、茶会を開くことができます。



翠松亭  
(沼津御用邸記念公園)  
沼津市下香貫島郷2802-1  
055-931-2233(東附属邸)  
<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/shisetsu/goyotei/east/annai/annai.htm>

【アクセス】

(お車で) 東名沼津I.Cより約25分  
(バスで) JR「沼津駅」より伊豆箱根バス「御用邸前」バス停下車





# 茶の都 しずおか

静岡県経済産業部 農林業局 茶業農産課  
〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1 水の森ビル3階 TEL: 054-202-1488



茶の都  
SHIZUOKA

